

同窓会報

第13号

昭和54年5月10日

社団法人
上田高等学校同窓会

印刷所

田辺印刷株式会社

校舎改築工事完成は三年後

本年度は管理棟建設

昭和五十一年八月より着手した普通教室二十四室の改築は五十二年度に機械室、自家用井戸水浄化装置、自転車置場の新設と共に完成し、昨年は今後の改築工事実施に備え校地のボーリング調査を実施した。

本年七月から校長室、事務室、当直室のあった平屋建ての懐しい本館と大講堂を取り壊し、その場所に東西に細長い管理棟の建設が始まる。この管理棟は三階建て、広さは三八四八平方メートルであるが、普通教室との通路、生徒昇降口室、約一四二平方メートルの関係もあり、本年度は五分の四の工事を行ない、残工事は明年九月迄に終了する。

本校の設計は同窓会館と定時制教室の建築が行われ改築工事の終了は昭和五十七年の見込である。

今回の管理棟の設計は同窓会館の建築を指導した尾島正吉（40回卒）技師の担当であるので、調和のとれた建築が期待され、取り壊れる建築物は田中豊雄（36回卒）氏により十六耗の映画に収められる。映画には現在の学校の状況等も記録される。

昭和五十三年総会

生徒指導助成費支出

昭和五十三年同窓会総会は、五十三年五月十八日午後一時より同窓会館で挙行され、田中豊雄（36回）氏の撮影「志賀の猿」を上映し、続いて地域振興整備公団理事丸山英人（36回）の講演「地域開発についての最近の諸問題」を行った。其の後五十二年度の事業報告及び決算、五十三年の事業計画並びに予算の審議を行った。

五十三年度は歳入六百六十六万四千九百四十一円、歳出五百七十八万六千三百七十九円であったが、維持会費が昨年より五十万五千五百円を増し百七拾万五千五百円が

入金したので、同窓会を維持することが出来た。維持会費は一口一千元を同窓会館維持のために特別に御負担を願うのであるが、東洋信託証券を御購入になれば、その利子の中から維持会費が支出される制度もありますので、本会発展のため維持会員になられるよう切望します。又本会は入学生徒の入学金六千円と値上げしたが、この分は生徒指導助成費七十九万九千として学校へ差上げました。

議事終了後、懇親会を兼ねて、勲章受領会員の祝賀会を開催したが、その芳名を次に記す。

創立八十周年記念事業会

校史委員会まづ発足

昭和五十三年総会に於いて、上田高等学校創立八十周年を五十五年を迎えるので、記念事業会を設立することが決定になり、五十二年十月六日同窓会、P・T・A学校の代表者会議を行ない、八十周年記念事業期成同盟会の設立を決定、同会には総務委員会、記念誌委員会、名簿委員会、資料蒐集委員会、施設委員会、募金委員会の六部会を置くことを決定した。

校史執筆に必要な各種の史料を急速に同窓会より寄贈又は貸与を受け、保存致しますので、御所持の方は至急に同窓会事務局へ御連絡下さい（電話0268-2213146）

なお、その他の委員会と名簿及び校史以外の事業については昭和五十四年度総会の御承議を得て発足の予定。

新田文庫設置

作家新田潤（本名半田祐二）氏は本校第21回の卒業生であるが、昨年五月十四日、七十三歳で死去された。本校の卒業生で作家となられた方は少ない。氏には「姉妹」「禁断の果実」「未完の主人公」「煙管」「片意地な街」「病める接吻」「東京地下鉄」「夢みる」「崖」等の自著がある。これ等と蔵書併せて九百三拾四冊が、昨年七月卒業生で従兄弟になる半田収一郎（50回卒）氏の仲介で、潤氏の夫人芳子様から上田高等学校図書館へ寄贈された。学校では新田文庫として大切に保管する。

昭和五十三年総会に於いて、上田高等学校創立八十周年を五十五年を迎えるので、記念事業会を設立することが決定になり、五十二年十月六日同窓会、P・T・A学校の代表者会議を行ない、八十周年記念事業期成同盟会の設立を決定、同会には総務委員会、記念誌委員会、名簿委員会、資料蒐集委員会、施設委員会、募金委員会の六部会を置くことを決定した。

校史執筆に必要な各種の史料を急速に同窓会より寄贈又は貸与を受け、保存致しますので、御所持の方は至急に同窓会事務局へ御連絡下さい（電話0268-2213146）

なお、その他の委員会と名簿及び校史以外の事業については昭和五十四年度総会の御承議を得て発足の予定。

敬称略	回	敬称略	回
勲三等旭日中授章清水逸平	12回	勲三等旭日中授章小林健道	24回
勲五等瑞宝章 山崎林治	12回	勲三等瑞宝章 緑川雅春	24回
勲五等及光旭日章長谷川孝蔵	20回	勲四等瑞宝章 小山正徳	26回
勲四等旭日小授章小林元伸	21回	藍綬褒章 橋詰二郎	29回
勲五等瑞宝章 宮城博	22回	藍綬褒章 宮原榮吉	30回
勲三等旭日中授章崎千秋	23回		

事務合理化のことなら………

明日の事務システムを創造する

株式会社 **TSC**

本社／上田市踏入2丁目19の34
☎ (0268) 22-6001代
長野支店／長野市若里1791
☎ (0262) 27-0264代
東京支店／東京都千代田区三番町3の2
☎ (03) 264-2480代

取締役営業部長 龍野彰宏(58回)

より新しいファッションをあなたに



上田市中央2-2-19(上田中央一番街)
TEL 22-0146代

荻野 三代治 (28回)
荻野 幹夫 (59回)

古き歴史を偲ぶ

校長 新津 真澄

若草の萌え立つ季節となりましたが、学校では去る三月九日、全日制三七七名、定時制二〇名の卒業生を送り出し、四月三日には、全日制三六九名、定時制一九名の新一年生を迎え入れることになりました。また、五十四年度後半から校舎全面改築工事が再開されることになりましたので、明治三十五年建てられた講堂及び控室の一部と、明治三十六年の管理棟が、これから卒業式、入学式の重要な学校行事を最後として取り壊されます。私たちは、新卒業生、新入学生とともに、古い歴史と伝統に思いを馳せ、一万八千におよぶ先輩各位が活躍した古き懐かしい建物への愛着と、新しいものへの希望を改めて脳裡に刻みこんだ次第です。

にわたる大工事になりますので、一時的に不便はありますが、生徒の学習活動にはなるべく支障のないよう工夫して、本校教育のモットーである学業とクラブ活動の両立を図って参りたいと考えます。また、来年度は創立八十周年の記念すべき年にもあたるので、校内でも記念事業の準備体制を整えております。校舎改築とも関連して同窓の皆さんに格別の御指導と御協力をお願いいたします。

創立八十周年記念事業

理事長 柳沢 文秋

長野県長野中学上田支校から独立して長野県上田中学校が創設されたのは明治三十三年（一九〇〇）四月一日である。上田松尾高等学校の時代に五十年史略が編纂されたが、明治十一年（一八七八年）六月に町立上田変則中学校が月窓寺に造られたと記述している。今年から数えれば一〇一年前の事である。しかし長野県政史第一巻には長野県の最初の中学は上田町で明治八年（一八七五年）旧藩士上野尚志等により変則中学校が開校され、それ以前に上野の私塾があつたと記述している。私の調査では上田の最初の中学は御殿跡を校舎としていたが、明治十三年

長野県長野中学上田支校から独立して長野県上田中学校が創設されたのは明治三十三年（一九〇〇）四月一日である。上田松尾高等学校の時代に五十年史略が編纂されたが、明治十一年（一八七八年）六月に町立上田変則中学校が月窓寺に造られたと記述している。今年から数えれば一〇一年前の事である。しかし長野県政史第一巻には長野県の最初の中学は上田町で明治八年（一八七五年）旧藩士上野尚志等により変則中学校が開校され、それ以前に上野の私塾があつたと記述している。私の調査では上田の最初の中学は御殿跡を校舎としていたが、明治十三年

二十六期生

緑の集い

〇郭公や五十年経て会ひし友
〇つじ真紅集めて心若やぐも
（邦人句）昨年五月二十七日、この日は日本海戦の記念日だから忘れぬようにとの案内が来た。忘れかけていた東郷大将の顔が、ちらりと瞳をよぎる。

新緑の田沢温泉の会場「富士屋ホテル」は正に紅白のつじ満開。玄関口には川西同志会が当番だとして、倉沢、南沢、松井、宮原の諸氏が応待に忙しい。到着順にサイン帳へ記名した。

一人一人に資料袋が渡される。袋の中に、名札、会計報告、塩田平の文化財解説誌、会員近況報告書、名簿、母校の思い出写真集、五十三名の恩師の氏名表など、ずつしり入っている。

田沢なるいて湯の里に集ひ来し二十六期の友のたのしさ。
（真一詠）集う者三十九名。
坂下清衛 倉沢周平 山崎通雄
竹内丈夫 山崎哲衛 宮入正道
上田政男 小林邦人 本堂知道

千六百七十九人に達し、全国一の就学率であった。これから考えると小学校三年を卒業した生徒は明治八年であるから、上野の私塾の開始は同年であつたと思う。

以上のように時が流れると記録は失われ、追求するに非常に困難になる。明年八十周年を迎える記念事業として第一に資料を集め、校史の編纂を取り上げることにし

第35回卒同級会

松井仁夫 大塚忠雄 今井利貞
佐藤真一 南沢忠雄 宮原英二
吾妻良秋 立岩隆平 福井清作
石井公男 馬場義人 長尾秀次
柴崎章雄 酒井諭一 倉島秀喜
森田達男 坂田隆雄 萩原雅
関 財 峰村一 水科和
滝沢 伝 西沢 信 小林 浩
小泉寿 大井直治郎 清水喜代
人 中村徳太郎 田口喜一郎
市村志真衛

例によって、はじめて同級会に出席した三名（西沢信 小泉寿、宮入正道の三氏）より「わが歩み」なる自己紹介あり。又アトラクションとして、富士屋旅館におねがいで村の文化財「壁塗り踊り」を披露してもらった。次に開宴前に例のごとく、我等が青春のいぶきを再現して、なつかしの校歌と寮歌と凱歌を斉唱して、たのしい酒宴に入る。

半世紀ぶりの校歌斉唱（利貞）
蕨の香壁塗り踊り郷さびて（邦人）
互ひに酒量は減つたと云つても、気分よろしく、ぐいぐいと吸い込んでゆく、時の経つのも忘れる。更にあらかじめ用意しておいた二次会室にだれだれ込んで、恩師の話旧友の話、互の近況を語る。こうして晩春の夜は沈々として、いであつて五十年（半世紀）前の若き日の中に眠りこけていった。

信州の地酒 清酒 初音

醸造元 関口酒造合資会社

TEL 0268-22-0232

関口 信雄(67回) 今井 邦夫(45回)

新校舎の設計にあたっては、校内の職員がこぞで教室配置等について検討し、県当局と数回にわたって折衝しました。それに基づいて、設計は尾島建築事務所（尾島正吉氏、四〇回卒）に委託されております。全体設計の中では、あくまで校門や土塀に調和したたたずまいを保持するとともに、内部は明るく近代的なものにする意向を申し出ております。改築工事は、今年度の管理特別教室棟に次いで、格技室（柔剣道場）、体育館、定時制専用教室その他部室等を校舎としていたが、明治十三年

長野県長野中学上田支校から独立して長野県上田中学校が創設されたのは明治三十三年（一九〇〇）四月一日である。上田松尾高等学校の時代に五十年史略が編纂されたが、明治十一年（一八七八年）六月に町立上田変則中学校が月窓寺に造られたと記述している。今年から数えれば一〇一年前の事である。しかし長野県政史第一巻には長野県の最初の中学は上田町で明治八年（一八七五年）旧藩士上野尚志等により変則中学校が開校され、それ以前に上野の私塾があつたと記述している。私の調査では上田の最初の中学は御殿跡を校舎としていたが、明治十三年

一人一人に資料袋が渡される。袋の中に、名札、会計報告、塩田平の文化財解説誌、会員近況報告書、名簿、母校の思い出写真集、五十三名の恩師の氏名表など、ずつしり入っている。

例によって、はじめて同級会に出席した三名（西沢信 小泉寿、宮入正道の三氏）より「わが歩み」なる自己紹介あり。又アトラクションとして、富士屋旅館におねがいで村の文化財「壁塗り踊り」を披露してもらった。次に開宴前に例のごとく、我等が青春のいぶきを再現して、なつかしの校歌と寮歌と凱歌を斉唱して、たのしい酒宴に入る。

半世紀ぶりの校歌斉唱（利貞）
蕨の香壁塗り踊り郷さびて（邦人）
互ひに酒量は減つたと云つても、気分よろしく、ぐいぐいと吸い込んでゆく、時の経つのも忘れる。更にあらかじめ用意しておいた二次会室にだれだれ込んで、恩師の話旧友の話、互の近況を語る。こうして晩春の夜は沈々として、いであつて五十年（半世紀）前の若き日の中に眠りこけていった。

通知した所、当日の参加者小山君外三十五名と多数、特に東京支会花岡・石倉両君が支会報を沢山持つて参加して花を添えてくれた。一同大いに語り飲み歌い、盛會裡に旧交を温める事が出来た事は主催者側にとり、又小山君にとってもまことに嬉しい事であった。又の再会を期して別れを惜しみつつ散会したが、出席者も都合で欠席した諸君も共に、愈々健勝であることを心から願って報告とす。五十三年六月十日 木村利喜雄 記す

上田高校同窓会

関東支部の現況報告

(その6)

前号第十二号紙には、丁度五二年度の関東支部報告事項が終ったので、本号には昨年五三年度の行事大要を御報告致したい。

昭和五三年度報告事項
二月二日 東信地区同窓連理事会開催され、本年の行事議す。

二月五日 長野県高校同窓連理事会行われ、県下全校の親睦議す

二月二十七日、本会の恒例となつた年始めの幹事会兼新年会を開催出席幹事七十余名盛況且楽し

三月十六日 本会の第十九号金報発行について 編集会議開催し理事会開かれ総会計議を議す。

四月四日 金報の広告募集について、広告部員招集、努力を誓う

四月十一日 幹事会開催 本年より三ヶ年間(二ヶ年を改正)の本会役員選出決定する。

◎新役員

支部長	31期	新	矢島 五郎
副支部長	35期	再	花岡 信
同	36期	新	福野 勝男
同	40期	新	小林 郷司
幹事長	44期	新	柳沢 広
副幹事長	44期	新	星野 賢造
同	48期	新	小木曾 誠
同	51期	新	村田 寛
同	58期	再	赤池 三男
同	58期	再	嘉市 相模
同	58期	再	弘信 弘信
同	58期	再	弘信 弘信

相談役(八名)

前監事	20期	新	吉井 道教
四代支部長	21期	再	島田 次郎
前監事	22期	新	柳沢 正春
五代支部長	23期	再	大森 頼雄
前監事	25期	新	馬場 長市
前監事	26期	新	酒井 諭一
六代支部長	28期	新	坂井 英雄
前副支部長	30期	新	尾白 三吉
編集委員(二四名)			
委員長	38期	再	清水 幾男
編集長	51期	再	村田 寛

「長野支部総会のもよう」

長野支部では、毎年七夕の夕べを母校上田高校の同窓会の夕べとすることにしている。昭和五十一年の支部創立総会での結論であるが、毎回に盛大である。初回は百十名ほどで、第三回目の昨年は長野バスターミナルに八十五名ほどの参加者を得た。数は少し減つたが中味はますます濃くなるので不思議である。

川合幹事長の開会宣言により、橋詰英雄支部長(二十一回)が「ユモアたっぷり」のあいさつ。続いて来賓柳沢文秋同窓会長が母校の近況を、また、母袋忠右衛門県議(三十二回)が県政報告と和田嘉夫副会長(三十七回、県議)の応援をまじえてあいさつ。酒宴は、

委員	31期	再	矢島 五郎
同	32期	再	中村 礼三
同	35期	再	花岡 信
同	35期	再	石合 謙一
同	37期	再	関 邦雄
同	37期	再	浅野 恭平
同	48期	再	柳沢 健
同	55期	再	堀内 良幸
同	60期	再	小林 秀芳
同	60期	再	伊東四次郎
同	60期	再	春日 敦美
同	60期	再	山崎 延秋
同	60期	再	久保田 勇
同	60期	再	新西 和臣
同	60期	再	神林 常規
同	60期	再	滝沢 敦美
同	60期	再	清水 卓

以上の新陣営をもって、本会の益々の発展と団結向上を期してスタートした。紙面の都合で次に主なる事項のみ列記する。

五月二十六日 金報「うえだ」第十九号発行。
五月二十八日 本部同窓大会に本部より役員多数出席。
六月九日 僚友校野沢北高同窓会に招待受け、本会役員出席。
六月十九日 本会幹事会開催、第十七回大会について議す。
六月二十一日 長野県高校同窓連理会開催され、三十余校終了。
六月二十二日 第十七回関東支部大会開催し、盛況に無事終了。
九月二十日 第十七回大会の反省会として本会幹事会ひらく。
九月二十六日 第二十号金報「うえだ」記念号発行の会議行う。
十月始めより編集委員全員にて取組み十一月下旬、増頁金報二十号発行す。委員全員に多謝、十一月十七日 僚友校松商学園創立八十周年記念京浜同窓会に招待受け本会を代表し矢島出席。
十一月二十八日 本会幹事会開催、二十号記念金報を主に、各期代表幹事六十余名と共に意見交換且つ親睦につくして、昭和五十三年を送る。以上
(第七代支部長 矢島五郎記)

二十九期生

上山田大会

われわれの同級生は昭五会とい、例会を毎年五月二十九日に開く……となっている。そのわれは勿論そのものづばり、昭和五年卒業で、第二十九回だからである。大体今までは日帰りのツケバぐらいいであったが、寄する年なみで泊りがけでやうと、昨年十一月二十六日、信州の深き紅葉を惜みつつ、上山田温泉は円山荘に於て開いた。

集る面々は末記の通り二十二名であったが、特に関東地区からはまだ第一線で活躍中のメンバーが多忙の時間をさいて参加してくれたのには幹事一同感激/先ず記念写真、そして挨拶、報告とすませあと宴会に移る。酒の量もまだまだ衰えないで頼もしい。酒が入れば歌が出る。歌ともなれば勿論、校歌、応援歌、凱歌そして信濃の国まで一通り出る。例会のほかにこの様な臨時の会を地元で、また関東地区で開こう。やがては奥さんも同伴での声も出る。晩秋の温泉はやはり良い。心ゆくまで飲めつくし、翌朝大回を期して東に西にと袂を分けた。

井村薫、鎌原義則、小林輝夫、坂田敏雄、沢明人(以上関東勢)市川信一、小田切芳直、斎掛久蔵、工藤林之助、小林明夫、佐藤清己、鈴木健吉、竹内敬太郎、竹内正喜、竹花俊雄、玉井亀治、中沢武一、福田金一郎、三井祐三、宮島平、柳沢利雄、山(工藤記)

奨学会だより

同窓会の奨学資金部は昭和二十七年に創設され、学業成績優秀にして、家庭の経済事情困難な生徒に奨学金を貸与することとし、最初五万円を計上し、昭和五十三年度迄に二百十四名の学生に奨学金を貸与している。

昭和五十三年度の奨学資金部の決算は、収入は前年度繰越金二二八、五三九、利子 一三三、八六三、返還金 二二八、〇〇〇、寄附金 二〇、〇〇〇、合計 二六〇、〇〇〇、支出は貸出金一六八、〇〇〇、差引残高二四三、四二二である。五十三年は二名に月額七千円を貸与しただけで、貸与希望者は少ない。日本奨学金の貸与希望者も今日は激減している。しかし次のような手紙が寄せられてきた。

あけましてお目出度うございませ。高校を卒業して、はや九ヶ年たちました。長い間お借りしていた奨学金三万六千円を送金し、全額返還いたしました。大変長い間ありがとうございました。

私は長野県の奨学金と合わせ二口借りて在学させていただき、これで全部返還出来て本当に嬉しく思います。やっとう一人での生計を立てられるようになりました。浪人中大学を諦め、県職員として就職し、はや九年となりました。

うまい酒 和田龍

醸造元 和田龍酒造株式会社

取締役社長 和田 晋(20回)
専務取締役 和田 智晴(51回)

上田市中央西1丁目14-14

電話(22)0461

上田高等学校同窓会
柳沢文秋様
小島礼子様
本曾福島町伊谷二四九の一
齊藤次郎
昭和五十四年一月四日